



芝山小だより



10月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

『読書の秋』です。

校長 寺井 俊敬

爽やかな秋風の吹く季節となりました。夏の猛暑のためでしょうか。プール前には、いつもお彼岸の頃に咲く曼殊沙華が、ちょうど今見頃を迎えています。来月19日(土)の運動会にむけて、子供たちは日々練習に励んでいます。子供たちの考えたテーマは『仲間と協力し、一人ひとりが輝ける運動会』です。運動会本番、演技・競技に全力で取り組んでくれると思います。子供たちにとって、思い出深い1日となってほしいと願っています。

さて、明日から10月。暑さがおさまり、過ごしやすくなるこの季節は、学習や運動等にじっくりと取り組むのよい季節です。10月は、清瀬教育の日、運動会、読書旬間、学年によっては校外学習も予定されています。子供たちにとって、自分なりの目標をもち、互いに協力し合って取り組む1か月となってほしいと思います。

ところで、『食欲の秋』、『芸術の秋』、『スポーツの秋』等、様々な秋がありますが、今回は、『読書の秋』について触れたいと思います。

今月、文化庁より「令和5年度(2023年度)『国語に関する調査』の結果の概要」についての報道がありました。その中の項目の一つに「読書と文字・活字による情報」という項目があります。調査対象は、全国16歳以上の個人約3500名です。

それによると、「1か月に読む本の冊数」に関する質問では、およそ62%が「読まない」と回答しています。また、読書量に関する質問では、およそ70%が「減っている」との回答がありましたが、その理由として「情報機器(携帯電話、スマートフォン等)で時間が取られる」がおよそ43%の方が回答しています。

一方、調査元は違いますが、全国学校図書館協議会の調査(2023年)も公表されています。調査対象は全国の小学生約3500名です。調査によると、小学生の1か月の平均読書冊数は12.6冊、不読者の割合は7.0%と公表しています。

小学生の時期には、読書をする機会もありますが、大人になると読書の機会が減るということは、やはりスマートフォン等の影響は大きいのでしょうか。

本校では毎週金曜日を「全校読書」として、朝学習の時間に一人一人が自分の読みたい本を手に読書に取り組み、静かな時間が流れています。来月22日(火)からは、今年度2回目の読書旬間が始まります。『多くの本に親しむことで読書の楽しさを味わい、読書の習慣を付ける。』『友達や先生方の本の紹介を読んだり聞いたりして、読書の幅を広げる。』という目的のもと、期間内は月曜日や木曜日の朝学習でも読書活動を行います。読書記録をカードに記入したり、教員や図書委員会による本の紹介等も行ったりします。

インターネット、スマートフォン等を通じて、活字に触れることはできます。必要な文字を打ち込み、検索すれば、ほしい知識、情報は得られます。ほしい知識、情報を得ることも身に付けなければならない大切な力です。

一方、読書活動を通して育まれる力はどうのようなものがあるでしょう。知識、情報はもちろんのこと、読解力、語彙力、想像力、表現力、集中力…育まれる力はたくさんあります。本校では、学習の中でICT機器の活用を行い、知識、情報を得ながら、読書活動を通して、読解力、語彙力、想像力、表現力、集中力等、様々な力を育てていきたいと考えています。

『読書の秋』です。お子様に読み聞かせをしてあげたり、お子様と一緒に好きな本について話し合ったりしてみたいかがでしょうか。まずは、私たち大人が子供たちに本を読んでいる姿を見せたいと思います。